

**製品名: CstF-50 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab09473**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	48kDa

**抗原情報**

遺伝子名	CSTF1
別名	CSTF1; Cleavage stimulation factor subunit 1; CF-1 50 kDa subunit; Cleavage stimulation factor 50 kDa subunit; CSTF 50 kDa subunit; CstF-50
遺伝子 ID	1477.0
SwissProt ID	Q05048
免疫原	抗血清はヒト CSTF1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 1-50

**背景**

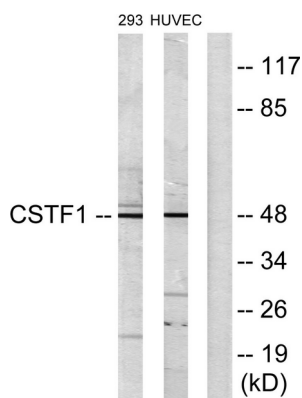
この遺伝子は、切断刺激因子（CSTF）を形成する3つのサブユニットのうちの1つをコードしています。CSTFは、pre-mRNAのポ

リアデニル化と3'末端切断に関与しています。哺乳類 G タンパク質の  $\beta$  サブユニットと同様に、このタンパク質はトランスデューション様リピート構造を有しています。この遺伝子には、5' UTR が異なるものの、同じタンパク質をコードする複数の転写産物バリエーションが見つかっています。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]、ドメイン: N 末端はホモ二量体形成を媒介します。、ドメイン: WD6 ドメインは BARD1 との相互作用に必要です。WD ドメインは CSTF3 との相互作用を担っています。、機能: 哺乳類 pre-mRNA のポリアデニル化と 3'末端切断に必要な複数の因子のうちの 1 つ。CSTF が他の因子と相互作用して pre-mRNA 上に安定な複合体を形成する役割を担っていると考えられる。、PTM:N 末端はブロックされている。、類似性:6 つの WD リピートを含む。、サブユニット:ホモ二量体。CSTF 複合体は、CSTF1 (50 kDa サブユニット)、CSTF2 (64 kDa サブユニット)、および CSTF3 (77 kDa サブユニット) から構成される。CSTF3 と直接相互作用する。BARD1 と相互作用する。、

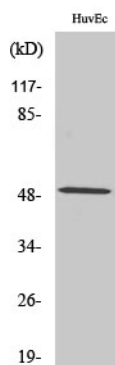
## 研究分野

-

## 画像データ



CSTF1 抗体を用いた HUVEC および 293 細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



CstF-50 ポリクローナル抗体を使用したさまざまな細胞のウェスタンブロット分析。